



『夢のあるストーリー』を見せてあげていますか？

校長 海 頭 巖

「山口県出身の脚本家・福田靖さんをご存知ですか。」

私は先日とあるシンポジウムに参加して、初めて知ったのですが、彼の名前を聞いてもピンと来ない人のために、執筆された主な作品を紹介しましょう。テレビドラマでは、『救命病棟 24時』、『HERO』、『海猿』、『ガリレオ』、NHK大河ドラマ『龍馬伝』、『DOCTOR～最強の名医』。映画では『海猿』シリーズ、『HERO』シリーズ、『容疑者Xの献身』、『真夏の方程式』などです。思わず「へえ～っ」と言われたことでしょう。押しも押されぬ、超売れっ子の脚本家の一人だということがお分かり頂けたでしょう。

『志、未来創造、和をつなぐ』というタイトルでのシンポジウムだったのですが、気品を感じさせる風貌、優しい語り口、智を巧みに操る深い話の内容（まるでどこかの校長とは大違い…。）にいたく感動したので、その一端を記します。

「脚本は小説と違い、『設計図』です。例えば、大河ドラマだと45分という時間の尺があったり、撮影のスケジュールや誰がどの役を演じるかなどたいへん制約が多いのです。だから、あらゆる人が読んで進めやすく、現場の人が喜んでくれるものを考えて作らなければなりません。『わかりやすいこと』、『笑いがあること』、『テンポがいいこと』、『それぞれの立場を引き立てること』、『多くの人に受け入れられること』を大切に作り上げています。大河ドラマ『龍馬伝』では、みんなが築き上げてきた司馬遼太郎の『竜馬がゆく』の龍馬像から離れた全く新しい龍馬像を作り上げる。高尚にしない。主演福山雅治さんだけを目立たせない。エンターテインメントに仕上げる。そのためには坂本龍馬に関する本は半端なく読んだ。『HERO』では、法律家の人と話ができるほど法律の勉強をした。」など、素敵な作品を私たちに提供してくれるまでの、並々ならぬ意欲と努力がひしひしと伝わってきました。「僕の座右の銘は『難しいものは優しく、優しいものは深く、深いものは面白く。(井上ひさし氏)』なんです。」と、さらっと言われたりもしました。

私は、話を聞いていて、「だから、売れるのだ！」と納得した。そして、「これらのことは、授業でも当てはまることだ。授業もこうでなくっちゃ！」と気づかされたのです。

また、過去の自分を振り返りながら、大学浪人・大学中退・演劇の脚本家としての極貧生活を明るく語られるなかで、「自分は夢をあきらめて、信頼できる人のススめに乗って、自分を生かせる道を選んだんです。夢の中にあるストーリーの中に自分がいると思えばみんながんばれるんですよ。」と。

子どもたちの『夢』や『志』を育み、『未来を創造すること、和をつなぐこと』のすばらしい示唆だと思いました。

子どもたちに「夢のあるストーリーを見せてあげるのが大人の役割ですよ。」と福田靖氏。どうお考えですか。お互い自問自答を・・・。